

アフターコロナ時代の 出版と図書館

2020年度は新型コロナウイルス拡大を防止するための戦いから始まり、そしてそれは今も続いています。しかし、この戦いは、なかなか進まなかったICTへの取り組みを一挙に進めました。紙媒体でのサービスの困難性は今も続いています。電子コンテンツへの重要性と利用の広がりを見せた年になったのではないのでしょうか。

そこで今回のセミナーでは、デジタル・ネットワーク社会において電子出版がもたらす読書の変容、データベース化する出版コンテンツの利活用について、追手門学院のこども園・幼稚園から大学院までの取り組み事例を紹介しながら解説していただきます。

今回は、「DXセミナー」と銘打って、事前に講演内容をネットで視聴していただき、質問を後日受け、その質問をもとにライブ配信の中で講師の先生と質疑を繰り広げます。そのライブセミナーの内容は、講師の湯浅先生が現在、追手門学院大学で取り組んでいる「電子書籍制作システムRomancer」を利用し、追手門学院大学が採用している電子図書館サービス「LibrariE」で広く一般に公開することとします。どうぞ気軽にご参加ください。お待ちしております。

講師：湯浅 俊彦先生（追手門学院大学・国際教養学部国際日本学科 教授）
長年デジタル環境下における出版ビジネスと図書館及び電子出版の生産・流通・利用・保存の研究を進めてきた第一人者。2020年11月に「電子出版学概論—アフターコロナ時代の出版と図書館」（出版メディアパル）を出版。
（著書情報は右のQRコードからご確認ください）



日時1：2021年2月13日（土）

湯浅俊彦先生による講演を大図研京都地域グループのホームページで公開

2021年2月22日（月）
正午まで

参加
無料

日時2：

2021年2月23日（火・祝）

10:00-11:30（最大延長12時まで）

定員：50名 **会場**：オンライン（Zoom）

申し込み・
詳細はこちら



湯浅先生のライブ講演を行い、事前にいただいた質問に湯浅先生がお答えします。

※参加者とのライブセッションも予定しています。
※講演内容を後日文字おこして、追手門学院大学の電子図書館「LibrariE」で公開予定

※2月23日のライブ講演に参加するためには事前登録が必要です

主催：大学図書館研究会京都地域グループ